

武漢方言における否定詞の用法⁽¹⁾

許

慧*

はじめに

中国では、北京官話についての研究は多いが、個々の中国語諸方言を言語として分析記述する研究は、北京官話に比して非常に遅れている。現代の中国語の方言は、次の七大方言グループに分けられる：a) 北方語，b) 吳語，c) 湘語，d) 贛語，e) 客家語，f) 閩語，g) 粵語。その中の北方語は、一般に、北方官話，西北官話，西南官話，下江官話の四種類に大別される。本論文で分析対象とするのは、筆者の母語方言——西南官話の中では最東端に位置する武漢の方言で、特に江岸，江漢，硤口で話される方言である。

武漢方言において、否定をあらわすのに、北京官話と同じく“不”を用いるが、北京官話にはない“不”を用いた表現が多く存在している。また、北京官話にある否定詞“没(有)”，“別”はあまり用いず、武漢方言の独特な否定詞“冇(得)”，“莫”などを用いる。本論文は、「共時言語学」の角度より北京官話と比較しながら、それらの用法・意味を記述することを目指すものである。

言語学とりわけ「共時言語学」において、「日常生活における話し言葉の研究を最優先すべきである」(湯川，1999:2)ため、今回扱う用例はすべて筆者が日常会話を基づいた作例であり、用例の冒頭の記号は次の通りである。

??：非常に不自然，*：非文。

§1. 不

北京官話でも武漢方言でも，“不”はある動作・行為や性質・状態の否定をあらわす。多くは現在や未来のことについて用いる。北京官話と同じく、動詞“有”(ある)の前に“不”を用いることはできない⁽¹⁾が、北京官話と異なり、武漢方言には、“有不有”(あるか否か)という表現形式が存在する⁽²⁾。

* 広島経済大学非常勤講師

(1) * 我 不 有 钱。

(北) wo³ bu⁴ you³ qian²

(武) ˊwo ˊbu ˊyou ˊqian⁽³⁾

私 ない ある お金

(私はお金がない。)

(2) 这 个 位 子 有 不 有 人 啊?

ˊle ˊge ˊwei. zi ˊyou ˊbu ˊyou ˊlen .a

これ 量詞 席 ある ない ある 人 語気詞

(この席には人がいますか?)

また、北京官話も武漢方言も、「形容詞+不+形容詞」という表現形式を有するが、この形式を副詞句として動詞の前に用いることができるのは武漢方言のみである。(3)のaは北京官話で、bは武漢方言である。(4)(5)は武漢方言にのみ可能な表現である。

(3) a 这 双 鞋 小 不 小?

(北) zhe⁴ shuang¹ xie² xiao³ bu⁴ xiao³

これ 量詞 靴 小さい ない 小さい

(この靴は小さい?)

b 这 双 鞋 子 小 不 小?

(武) ˊle ˊsuang ˊhai .zi ˊxiao ˊbu ˊxiao

これ 量詞 靴 小さい ない 小さい

(この靴は小さい?)

(4) 多 不 多 煮 点 饭 哪?

-duo ˊbu -duo ˊju ˊdie ˊfan .na

多い ない 多い 煮る 少し ご飯 語気詞

(少し多めにご飯を炊きませんか。)

(5) 你 们 快 不 快 点 走 的 啊?

ˊli .men ˊkuai ˊbu ˊkuai ˊdie ˊzou .di .a

君たち 速い ない 速い 少し 歩く の 語気詞

(君たちは少し速く歩かないか。)

(3)に見るように、「形容詞+不+形容詞」という表現形式が後に何も付けずに疑問文の最後に用いられることは北京官話にも武漢方言にもよくある。さて、武漢方言の(4)(5)の例において、「形容詞+不+形容詞+VP」という表現形式が用いられており、他人の意見を尋ねる、あるいは、あることを強く要求するなどの意味をあ

らわす。後者の場合、動詞の後に“的”を伴うことが多い。武漢方言でも、こうした場合以外には用いられない。

また、武漢方言では、北京官話にはない“不”を用いた表現が非常に多く存在しており、多くは慣用句として用いられている。次に一つずつ述べていく。

まず、(6)が示すように、一部の心理状態をあらわす動詞の後に「不过」をつけ、その心理状態が普通の状態を超えているという意味をあらわす。心理状態を云々する時以外にはあまり用いられない(7)。北京官話では、こうしたことは不可能である。

(6) 我 蛮 呕 不 过。

˥wo ˩man ˩ŋgou ˩bu ˩guo

私 とても 怒る 過ぎない

(私はすごく頭にきた。)(lit. 私はどんなに怒っても怒り過ぎないほど怒った。)

(7) *我 昨 天 跑 不 过。

˥wo ˩zuo-tian ˩pao ˩bu ˩guo

私 昨日 走る 過ぎない

(私は昨日すごく走った。)

また、(8)(9)に見るように、「不得+VP」(北京官話の「不会+VP」に当たる)という表現形式が一種の慣用句として用いられ、その動詞のあらわす動作・行為が発生しないと予測するという意味をあらわしう。それ以外には用いられない。発話者が自分の否定の予想が正しいということを強調したい時に、しばしば“得”を長く発音する。北京官話でも“不得”を用いることはあるが、全く異なる用い方で、このような用法はない。⁽⁴⁾

(8) 他 不 得 跟 你 讲 (的)。

-ta ˩bu_de ˩gen ˩li ˩jiang ˩.di

彼 何かが起こらないだろう と 君 話す の

(彼は君に話さないと思うよ。)

(9) 小 明 今 天 不 得 来 (的)。

˥xiao ˩min ˩jin-tian ˩bu_de ˩lai ˩.di

小明 今日 何かが起こらないだろう 来る の

(小明は今日来ないと思うよ。)

“不得”の後に動詞(句)だけでなく、名詞(句)を付けることもできる。「不得+NP+了」という表現形式はその名詞のあらわすものをどのように扱ったらいのかが分からない、つまりそのものを大切に扱えないという意味をあらわす。例えば、

(10)は聞き手がお金を無駄に使いすぎで、お母さんが叱る時の発話だと思われる。北京官話では、“不得”をこの意味で用いることは不可能である。

(10) 你 不 得 钱 了。

˥li ˥bu˥de ˥qian ˥liao

君 不得 お金 語気詞

(お前はお金を使いすぎなんだよ。)

(11) 你 不 得 精 神 了。

˥li ˥bu˥de ˥jin˥.sen ˥liao

君 不得 元気 語気詞

(お前は元気すぎなんだよ。)

また、武漢方言には、「不消+VP+得」(北京官話の「不用+VP」に当たる)という表現形式が存在しており、そのVPのあらわす動作・行為が不必要であることをあらわしうる。北京官話では、同じような意味で“不用”を用いることができるが、“得”はつかない。

(12) 你 不 消 去 得。

˥li ˥bu˥xiao ˥ku ˥de

君 不必要 行く 得

(君、行く必要がないよ。)

(13) 你 不 消 跟 我 讲 得。

˥li ˥bu˥xiao ˥gen ˥wo ˥jiang ˥de

君 不必要 と 私 言う 得

(お前、私に言う必要がないよ。)

§2. 有

北京官話では、“没(有)”がよく動詞や形容詞などの前に用いられ、動作・行為や性質・状態の変化が起こったことあるいは完了したことを否定する。武漢方言でも、“没有”は人によっては用いるが、北京官話とは異なり、“没”は独立には用いられない。例えば、“我还没吃饭”(私はまだご飯を食べていない)という文は北京官話では言えるが、武漢方言では言えず、“有”を用いる。

(14) 昨 天 有 下 雪。

˥zuo˥tian ˥mao ˥xia ˥xie

昨日 ない 降る 雪

(昨日雪は降らなかった。)

(15) 我 有 学 过 法 语。

˥wo ˥mao ˨xio ˥guo ˨fa˥yu

私 ない 勉強する た フランス語

(私はフランス語を勉強したことがない。)

武漢方言では、否定副詞“有”が疑問文の最後にあらわれる現象がよく見られる。しばしば“有”の前に“的”を用いる。

(16) 你 去 过 三 峡 (的) 有?

˨li ˥ku ˥guo ˨san_xia .di ˥mao

君 行く た 三峡 の ない

(君, 三峡に行ったことがある?)

(17) a 他 去 了 三 峡 有?

˨ta ˥ku .ao ˨san_xia ˥mao

彼 行く た 三峡 ない

(彼は三峡に行った?)

b 他 去 了 三 峡 的 有?

˨ta ˥ku .ao ˨san_xia .di ˥mao

彼 行く た 三峡 の ない

(彼は三峡に行ったの?)

(18) a 你 爸 爸 回 了 有?

˨li ˨ba .ba ˨hui .ao ˥mao

君 お父さん 帰る た ない

(お父さんは帰ってきた?)

b 你 爸 爸 回 了 的 有?

˨li ˨ba .ba ˨hui .ao .di ˥mao

君 お父さん 帰る た の ない

(お父さんは帰ってきたの?)

(16) (17) (18)においては、“有”の前に“的”がない場合に文の末の“有”を“没有”に置き換えると、北京官話になるが、“有”の前に“的”がある場合には置き換えることができない。例えば、“你去过三峡的没有?”(君, 三峡に行ったことがある?)というような言い方は北京官話にはないのである。また、武漢方言では、“的”の有無によってニュアンスの差が生じる場合がある。例えば、(17)の例は、彼が三峡に行ったかどうかを聞き手に尋ねている場面と想定できる。“的”を用いない場合には、彼が三峡にいる可能性といない可能性が両方あるが、“的”を用いる場合に

は、話し手は、発話する時に彼が三峡にいないことを前提にして、彼が三峡に行ったことがあるかないかを聞き手に尋ねる、ということになる。(17)と似て、(18)の例は、“有”の直前に“的”が見つからない場合には、お母さんが家に帰ってきた時、留守番をしていた子どもにお父さんが帰ってきたかどうかを尋ねる場面と想定できる。この場合、お父さんが家にいる可能性がある。一方、“有”の直前に“的”が見つかる場合には、お母さんはお父さんが家にいないことを前提にして、子どもが留守番中にお父さんが帰ってきたことがあるかどうかを尋ねる、という意味になる。このように、“的”の有無によってニュアンスの差が生じたのは、恐らく“的”には(過去の出来事を)確認するという意味があり、現在とは関係ないというニュアンスが出てくるからであろう。(17)において、“的”の有無によってそれほど意味の違いが出なかったのは、動詞“去”(行く)の後に、あることを経験したことがあるという意味を持つ“过”がついていることによるのではないかと考えられる。

また、武漢方言は、「有+VP+得」という表現形式を有し、そのVPのあらわす動作・行為がまだまだ欠けているという意味をあらわしうる。例えば、(19)において、“有打得”には一回も殴られていないという意味もあれば、一回か二回くらいしか殴られていないという意味もある。北京官話では、この表現ができないのはもちろんだが、“有”を“没(有)”に置き換えても言えない。

(19) 你 是 有 打 得。

˥li ˩si ˩mao ˥da ˩de

あなた です ない 殴る 得

(お前(が人の言うことを聞かないの)はまだまだ殴られていないからだ。)

(20) 这 也 不 吃 那 也 不 吃, 你 是 有 饿 得。

˩le ˥ye ˩bu ˩qi ˩la ˥ye ˩bu ˩qi ˥li ˩si ˩mao ˩o ˩de

これ も ない 食べる あれ も ない 食べる 君 です ない すく 得

(これも食べないあれも食べない。お前はお腹がまだまだすいてないだろう。)

§3. 有得

“有得”(北京官話の動詞の“没有”に当たる)は、数量詞の前に置いて、そこまで到達していないことをあらわしうる。

(21) 我 回 来 有 得 几 天。

˥wo ˩hui ˩lai ˩mao ˩de ˥ji ˩-tian

私 帰る 来る ない 何日

(私は帰ってきてから何日も経っていません。)

また、“有得”は「所有」あるいは「存在」を否定する。

(22) 我 有 得 这 本 书。

ˊwo ˊmao_de ˊle ˊben -xu

私 ない これ 量詞 本

(私はこの本は持っていない。)

(23) 教室 寔里 有 得 人。

ˊjiao_si ˊdou·li ˊmao_de _len

教室 中 ない 人

(教室には人がいない。)

なお、北京官話では“没”を動詞として用い、後に名詞を置くことができるが、武漢方言では“有”はこうしたことができず、“有得”を用いる。例えば、北京官話では“没钱”（お金がない）と言えるが、武漢方言では“有钱”は言えない。なぜならば、“有”には、人や物が存在しないという意味はないからである。

北京官話では、“有没有”は名詞の前に用いられ、「所有」あるいは「存在」の有無を聞き手に尋ねるという意味をあらわすこともあれば、動詞の前に用いられ、その動詞のあらわす事情が発生したかどうかを尋ねるという意味をあらわすこともある。一方、武漢方言では、“有没有”はあまり用いない。“有有得”または“有不有”を用いて前者の意味をあらわすことができるが、後者の意味をあらわすことができない。つまり、これらは動詞の前に用いられないのである。(24)～(26)のaは北京官話で、b、cは武漢方言である。

(24) a 你 有 没 有 手 提 电 脑？

(北) ni³ you³ mei² you³ shou³ ti² dian⁴ nao³

君 ある ない ノートパソコン

(君はノートパソコンを持ってる？)

b 你 有 有 得 手 提 电 脑？≡ 你 有 不 有 手 提 电 脑？

(武) ˊliˊyouˊmao_deˊsou_tiˊdianˊlao ˊliˊyou_buˊyouˊsou_tiˊdianˊlao

君 ある ない ノートパソコン

(君はノートパソコンを持ってる？)

(25) a 房 间 里 有 没 有 人？

(北) fang² jian¹ li³ you³ mei² you³ ren²

部屋 中 ある ない 人

(部屋の中には人がいますか？)

b 房 间 窠 里 有 有 得 人? ⇨ 房 间 窠 里 有 不 有 人?
 (武) _fang-jianˊdou•liˊyouˊmao_de_len _fang-jianˊdou•liˊyou_buˊyou_len

部 屋 中 あ る な い 人

(部屋の中には人がいますか?)

(26) a 你 有 没 有 去 过 他 家?

(北) ni³ you³ mei² you³ qu⁴ guo⁴ ta¹ jia¹

君 あ る な い 行 く た 彼 家

(君は彼の家に行ったことがある?)

b * 你 有 有 得 去 过 他 屋 里?

(武) ˊli ˊyou ˊmao_de ˊkuu ˊguo -ta _wu•li

君 あ る な い 行 く た 彼 家

(君は彼の家に行ったことがある?)

c * 你 有 不 有 去 过 他 屋 里?

(武) ˊli ˊyou _bu ˊyou ˊkuu ˊguo -ta _wu•li

君 あ る な い あ る 行 く た 彼 家

(君は彼の家に行ったことがある?)

上記の例に見るように、「所有」あるいは「存在」の有無を聞く時に、“有没有”は武漢方言の“有有得”，あるいは“有有”に置き換えることができるが，動詞のあらわす事情が発生したか否かを聞く時には，置き換えることができない。つまり，武漢方言の“有得”には，動作・行為や性質・状態の変化が起こったことあるいは完了したことを否定するという意味がないから，「有有得+VP」も言えないのである。“有”はそういう意味をあらわすことができるが，“有有”という言い方は武漢方言にはあまりあらわれない。そういう意味をあらわすのに，「V+(过)+(的)+有」あるいは「V+有+V+(过)」という表現を用いる。例えば，(26)のaの文は，武漢方言では，“你去过他屋里(的)有?”という文，あるいは“你去有去过他屋里?”という文で表現する。

§4. 莫

“莫”(北京官話の“别”，“不要”に当たる)は副詞として動詞や形容詞，文(主に“把”構文)の前に用いられ，ある行為・状態を禁止するという意味をあらわす。

- (27) 你 莫 扯 谎。

˧li ˨mo ˧ce˧huang

君 ない 嘘をつく

(お前嘘をつくな。)

- (28) 你 莫 吊 儿 郎 当 的。

˧li ˨mo ˧diao_er-lang-dang ˨di

君 ない だらしない の

(君, だらしない振る舞いはするな。)

- (29) 莫 把 我 搞 烦 了。

˨mo ˧ba ˧wo ˧gao ˨fan ˨liao

ない 把 私 する いらいらする た

(私をいらいらさせるな。)

また,「禁止」と言える場合のほか,“莫”は勧告してやめさせる場合や,聞き手に何かをしないように願い求める場合にも用いられうる。(30)は前者で,(31)は後者である。

- (30) 你 先 莫 着急, 慢慢 想 办法。

˧li ˨xian ˨mo ˨zuo_ji ˨man-man ˧xiang ˨ban_fa

君 まず ない 焦る ゆっくり 考える 方法

(君, まず焦らないで, ゆっくり方法を考えるんだ。)

- (31) 求 你家 莫 开除 他。

˨qiu ˧nia ˨mo ˨kai_qu ˨ta

頼む あなた(敬語) ない 首にする 彼

(お願いします。彼を首にしないでください。)

面白いことに,“莫”の後に文をつけて,あることが起こるのはいや,もしくは怖いという意味をあらわしうる。

- (32) 晚 上 莫 四 个 台 一 起 放 新 闻 咧。

˧wan.sang ˨mo ˨si ˨ge ˨tai ˨yi ˧qi ˨fang ˨xin_wen ˨lie

夜 ない 四 量詞 チャンネル 一斉 放送する ニュース 語気詞

(夜は四つのチャンネルが一斉にニュースを放送するんじゃないよね。)

- (33) 莫 等 下 子 老师 到 我 屋 里 跟 我 老 头 告 状 咧。

˨mo˧den-ha.zi˧lao-si ˨dao˧wo_wu•li ˨gen ˧wo ˧lao_tou ˨gao˨zuang ˨lie

ない あとで 先生 至る 私 家 と 私 父 告げる 語気詞

(あとで先生が私の家へ行って私の親父に告げ口をするんじゃないよね。)

(32)は、すごい大地震が起こって、夜には全てのチャンネルに恐らく地震のニュースが流れるだろうと予想し、かつ、それを歓迎しない気持ちで発話したような文である。(33)は、発話者が学校で悪いことをしてしまって、先生が家庭訪問の時に父親に告げ口をされるのが怖いという場面である。

以上、“莫”の意味を記述したが、次に北京官話では“莫”に当たる“別”の用法と比較しながら、“莫”の後にどんな動詞、形容詞が用いられるかを考察していく。

邵敬敏、罗晓英(2004)の北京官話の“別”に関する研究では、“別”の後に任意の動詞を置くことができるわけではない、“別”は基本的に聞き手に何かをさせないという意味合いなので、後の動詞は人がコントロールできるタイプの動詞でなくてはならない、ということが指摘されている。武漢方言の“莫”についても同様のことが言える。(34)、(35)は北京官話で、(34′)、(35′)は武漢方言である。

(34) *別 地 震。⁽⁶⁾ (邵敬敏、罗晓英、2004： 19)

(北) bie² di⁴ zhen⁴
 ない 地震が起こる
 (地震が起こるな。)

(35) *別 病。 (邵敬敏、罗晓英、2004： 19)

(北) bie² bing⁴
 ない 病気になる
 (病気になるな。)

(34′) * 莫 地 震。

(武) _mo ∨di ∨zen
 ない 地震が起こる
 (地震が起こるな。)

(35′) * 莫 病。

(武) _mo ∨bin
 ない 病気になる
 (病気になるな。)

上記の例に見るように、一般に地震が起こるかとか、病気になるかとかということとは人間のコントロールできないことなので、“別”、“莫”の後には用いられない。しかし、これらのような動詞の後に“了”をつけて、発話者が起こってほしくないことが既に起こってしまったのではないかと予測する場合には用いられうるという。

(36) (房子晃得那么厉害,) 别地震了。

(北) fang³ zi huang⁴ de² na⁴ me li⁴ hai⁴ bie² di⁴ zhen⁴ le
家 揺れる 得 そんなに ひどい ない 地震が起こる た
(家がひどく揺れているよ。まさか地震が起こったじゃないよね。)

(37) (小李好几天没来,) 别病了。

(北) xiao³ li³ hao³ ji³ tian¹ mei² lai² bie² bing⁴ le
李さん 程度を表す 何日 ない 来る ない 病気になる た
(李さん何日も来てないね。まさか病気になったのじゃないよね。)

(以上 邵敬敏, 罗晓英, 2004: 20)

こうしたことは、武漢方言においても言える。

(36') (房子晃得那厉害,) 莫地震了咧。

(武) _fang. zi ^huang .de ^la ^li ^hai _mo ^di ^zen .liao .lie
家 揺れる 得 そんなに ひどい ない 地震が起こる た 語気詞
(家がひどく揺れているよ。まさか地震が起こったじゃないよね。)

(37') (小明好几天有来,) 莫病了咧。

(武) ^xiao _min ^hao ^ji-tian ^mao _lai _mo ^bin .liao .lie
小明 程度を表す 何日 ない 来る ない 病気をする た 語気詞
(小明何日も来てないね。まさか病気をしたのじゃないよね。)

邵敬敏, 罗晓英(2004) では, “別” の後にどのような形容詞を置くことができるのかについて議論されているが, 指摘されていないことがあるので, ここで補充しておく。(38), (39) の a は北京官話で, b は武漢方言である。全て筆者の作例である。

(38) a *別 漂 亮。

(北) bie² piao⁴ liang
ない 綺麗
(綺麗になるな。)

b *莫 漂 亮。

(武) _mo ^piao .liang
ない 綺麗
(綺麗になるな。)

- (39) a *別 聡 明。
 (北) bie² cong¹ ming
 ない 賢い
 (賢くなるな。)
- b *莫 聡 明。
 (武) _mo -cong. min
 ない 賢い
 (賢くなるな。)

(38), (39)において, “漂亮” (綺麗) や “聰明” (賢い) というような形容詞が生まれつきの性質をあらわしており, 人間がコントロールできないため, やはり “別”, “莫” の後には用いられないのである。しかし, これらのような形容詞の直前に “太” (とても), 直後に “了” (語気詞) を加えて, その形容詞のあらわす性質・状態を高度にはしないようにという場合には用いられうる。(40), (41) の a は北京官話で, b は武漢方言である。

- (40) a 別 太 漂 亮 了。
 (北) bie² tai⁴ piao⁴ liang le
 ない とても 綺麗 語気詞
 (綺麗にし過ぎないようにね。)
- b 莫 太 漂 亮 了。
 (武) _mo ʔtai ʔpiao• liang .liao
 ない とても 綺麗 語気詞
 (綺麗にし過ぎないようにね。)
- (41) a 別 太 聡 明 了。
 (北) bie² tai⁴ cong¹ ming le
 ない とても 賢い 語気詞
 (賢くし過ぎないようにね。)
- b 莫 太 聡 明 了。
 (武) _mo ʔtai -cong. min .liao
 ない とても 賢い 語気詞
 (賢くし過ぎないようにね。)

(40) は, 例えば, 一生懸命化粧をしている友達に「綺麗にしすぎたら, ナンパされちゃうよ」と冗談をいう時の発話と想定できる。(41) は, 発話者が賢くしすぎるとよくないと聞き手を注意する時の場面である。両者の形容詞はそれらの直前に程

度をあらわす副詞“太”，直後に強調をあらわす語気詞”了”を置くことによって，本来は生まれつきの性質をあらわす形容詞が人間のコントロールできるような性質をあらわすものになったので，“別”，“莫”の後に用いることができるのではないかと考えられる。

しかし，全ての場合に北京官話の“別”が武漢方言の“莫”に置き換えられるわけではない。例えば，(42)の例に挙げたように，“別”は動詞の前に用いてその動詞のあらわす動作・行為が不必要であるという意味をあらわしうるが，“莫”はそういうことをあらわしえない。

(42) a 你 们 去 我 就 别 去 了。

(北) ni³ men qu⁴ wo³ jiu⁴ bie² qu⁴ le

君ら 行く 私 就 ない 行く 語気詞

(君らが行くなら，私は行く必要がないね。)

b ??你 们 去 我 就 莫 去 了。

(武) ʌli.men ʋkuu ʌwo ʋjiu ʌmo ʋkuu .liao

君ら 行く 私 就 ない 行く 語気詞

(君らが行くなら，私は行く必要がないね。)

§ 5. 懶

“懶”（北京官話の“不想”に当たる）は副詞として動詞の前に用いられ，ある意志・願望を否定する。動詞の後に助詞”得”を伴わなければならない。

(43) 这 堂 课 我 懶 上 得。

ʋle ʌtang ʋkuo ʌwo ʌlan ʋsang ʌde

これ 量詞 授業 私 たくない 受ける 得

(この授業は私受けたくない。)

(44) 今 天 早 上 我 懶 吃 得。

-jin-tian ʌzao sang ʌwo ʌlan ʌqi ʌde

今日 朝 私 たくない 食べる 得

(今朝は私食べたくない。)

北京官話も武漢方言も，「懶得+VP」という表現形式を有する。例えば，(44)は“今天早上我懶得吃”とも言えるし，北京官話でもそうである。しかし，上の例に挙げた「懶+VP+得」というような言い方を有するのは武漢方言のみである。

おわりに

本論文は、武漢方言における否定詞の用法について考察してみたが、まだいくつか問題点が残されている。まず、本論文は「共時言語学」の角度より武漢方言の否定詞の用法を記述したが、これらの否定詞は歴史上どういった変化を経て現在の形になったのかについて記述していない。例えば、“莫”は古文の中でもよく見られるが、武漢方言の“莫”は古文そのまま残ってきているかどうかは、“莫”の意味の更なる解明に繋がっている。また、「共時言語学」の角度においても、記述不足の部分がある。陳淑梅の『鄂東方言語法研究』（2001）では、否定詞“冇”、“莫”などについても記述されている。鄂東地区は武漢の西に位置しており、武漢とは別の方言区なのに、同じ否定詞を共有している。それらの意味及び用法は全く同様なのか、また“莫”は北京官話の“別”とはどこまで違うのかなどは興味深い問題であり、今後の課題として考察していきたい。

注

- (1) 本論文は、日本中国語学会・第57回全国大会（琉球大学にて）における発表を加筆・訂正したものである。言うまでもなく本論文に関する誤り・不備の責任はすべて筆者自身にある。
- (2) 現在、武漢の若者の中では、「所有」を尋ねる時に、“有冇有”より“有冇得”のほうが頻繁に用いられているようである。
- (3) IPA は方言を表記する際によく用いられるが、武漢方言の母音及び子音は北京官話と殆ど変わらないので、便宜上本論文はピンインを用いて武漢方言を表記する。武漢方言の表記に用いる子音字とその概略の音価は、次の如くである。ほぼ、北京官話の慣用的正書法にならう。

b([p]), c([tsʰ]), d([t]), f([f]), g([k]), h([x]), j([tɕ]), k([kʰ]), l([l]), m([m]), n([n]), ŋ([ŋ]), p([pʰ]), q([tɕʰ]), s([s]), t([tʰ]), x([ç]), z([ts]), zh([ʒ]).

母音字は、次の通りである。

i([i]/[ɪ]) e([ə]), a([a]), o([o]), u([u]/[y]), ʊ([ʊ]), ü([y]).

母音字の組み合わせや、母音字と子音字の組み合わせは、次の如くである。

ai([ai]), ao([au]), ei([ei]), ia([ia]), iao([iau]), ie([ie]), io([io]), iou([iou]),
ou([ou]), ua([ua]), uai([uai]), ue([ye]), uei([uei]), uo([uo]),
an([an]), ang([aŋ]), en([ən]), ian([iən]), iang([iaŋ]), in([in]),
iong([ioŋ]), ong([oŋ]), uan([uan]), un([uən]/[yn]), uang([uaŋ]).

声調については、武漢方言は、北京官話と同じく基本的に四つの声調を有するが、声調の高さが違うので、北京官話と区別するため、以下の通りにあらわすことにする。

ˊ 口 高く始まり、末尾がさらに高くなる、

- ∨口 低く始まり，高くなる，
- ^口 中位に始まり，下がる，
- _口 低く始まり，末尾が少し上がる。

また，武漢方言において，軽声は大まかに分ければ二種類がある。次の通りに表記する。

- ˊ口 高い軽声，
- ˋ口 低い軽声。

二文字の単語においては，後の字の声調は変わらない。前の字の声調にはそう大きな変化がないが，基本的に発音が短くなる（後の字が軽声の場合を除く）。

以上の点は，まだ十分な分析を得たものではない。

- (4) 北京官話では，「VP＋不得」という表現形式を用いて，VPのあらわす動作・行為ができないという意味をあらわす。例えば，“这双鞋我穿不得”（この靴は，私が履くことができない）において，“穿不得”は履くことができないという意味である。この用法は武漢方言でも見られる。
- (5) (17)の主語を第二人称代名詞“你”に置き換えれば，“的”の有無によって，そう大きなニュアンスの差が生じない。なぜならば，聞き手が目の前にいないと，会話が成り立たず，当然“三峡”にいないことに決まっているからである。
- (6) 中国語では，“地震”を名詞及び動詞として扱っている。ここでは，“地震”は後者である。

参 考 文 献

- 湯川恭敏 1999 『言語学』 ひつじ書房
- 陈淑梅 2001 『鄂东方言语法研究』 江苏教育出版社
- 邵敬敏 罗晓英 2004 「“别”字句语法意义及其对否定项的选择」『世界汉语教学』 第4期 pp.18-26

On the Negative Words in the Wuhan Dialect of Chinese

The negative word “bu” (不) is used both in the Mandarin Chinese and the Wuhan dialect. However, some expressions in which “bu” (不) is included are not available in the former but available in the latter. And there are also a lot of special negative words such as “mao” (冇), “mo” (莫) in the Wuhan dialect. This paper is intended to describe the uses of the negative words in the Wuhan dialect of Chinese, while comparing them with the Mandarin Chinese.